



平成 29 年 1 月 6 日
海 上 保 安 庁

より良い VTS^{*1}の実現に向けて

～次世代 VTS に関するワークショップの開催～

海上保安庁は、1月16日から20日までの間、先進国において船舶の航行安全対策を所管する関係当局職員を日本に招き、VTS（Vessel Traffic Service：船舶通航支援等業務）の先進技術・運用・教育訓練に関するワークショップを開催します。

1. 開催目的

日本の航行援助業務においては、航行船舶の安全確保及び運航能率の向上のため、レーダー、AIS^{*2}及び遠隔カメラ等を活用してきました。近年、航行援助業務の1つであるVTSにおいて接近監視、乗揚げ監視等を支援するツールの開発が進んでおり、VTS運用管制官にはこれらを有効活用することが期待されています。

本ワークショップでは、VTSの現状分析、課題抽出及びVTSの技術・運用・教育訓練による課題解決に向けた意見交換を行い、より良いVTSの実現に寄与することともに、次世代VTSの実施に必要な先進技術・運用・教育訓練について検討を行い、船舶の大型化といった船舶交通の環境変化に対応できるVTSを提案することを目的としています。

2. 日程及び場所

月日	内容	場所
1月16日（月）	ワークショップ	本庁（中央合同庁舎2号館16階国際会議室）
1月17日（火）	ワークショップ	本庁（中央合同庁舎2号館16階国際会議室）
1月18日（水）	ワークショップ	本庁（中央合同庁舎2号館16階国際会議室）
1月19日（木）	テクニカルツアー	横浜港内交通管制室
1月20日（金）	ワークショップ	本庁（中央合同庁舎2号館16階国際会議室）

3. 参加国（組織）

トルコ、オーストラリア、スウェーデン、イギリス、アメリカ
IALA^{※3}

4. ワークショップの内容

参加国から VTS の現状について発表し、各国の現状を共有するとともに VTS の技術・先進技術・教育訓練による課題解決に向けた意見交換を行い、次世代の VTS に必要な手段の検討を行います。また、テクニカルツアーとして横浜港内交通管制室を見学し、日本の運用状況を紹介します。

- ※1 VTS (Vessel Traffic Services : 船舶通航支援等業務) は、航行船舶の安全性と効率性の向上等を目的に、レーダー、AIS、VHF 無線電話等を活用し様々な情報を収集したうえで、航行船舶に対し必要な情報を提供するとともに、航行管制を実施する業務です。
- ※2 AIS (Automatic Identification System : 船舶自動識別装置) は、船舶の識別符号、種類、位置、進路、速力、航行状態及びその他安全に関する情報を自動的に VHF 帯電波で送受信し、船舶局相互間及び船舶局と陸上の航行援助施設等との間で情報の交換を行うシステムです。
- ※3 IALA(International Association of Marine Aids to Navigation and Lighthouses Authorities : 国際航路標識協会) は、IMO (国際海事機関)、ITU (国際電気通信連合) 及び IHO (国際水路機関) 等と密接な関係を保ちつつ、航行援助事業にかかる諸問題の検討、航行援助事業の標準化のための勧告・ガイドライン等の制定及び各国・地域の航行援助事業の発展等に努めている非政府組織です。